

介護保険住宅改修状況等確認書(住宅改修が必要な理由書)

記入要領 P1

〈基本情報〉

被保険者番号							年齢	歳	生年月日	明治大正昭和	年月日	性別	男・女
被保険者氏名				要介護認定 (該当に○)	要支援	要介護							
					1・2	経過的・1・2・3・4・5							
利用者住所	(電話番号)												
住宅の所有者	本人との関係()												

保険者	確認日 平成 年 月 日	評価欄											
	氏名												

作成者	現地確認日	平成 年 月 日	作成日	平成 年 月 日	着工予定日	平成 年 月 日
	所属事業所	事業所名				
	事業所所在地	電話番号()				
資格	1. 介護支援専門員(事業所番号) 2. 介護予防支援事業者担当職員(事業所番号) (職種)※介護支援専門員の場合は1.に記入 3. 福祉住環境コーディネーター2級以上(証書番号) 4. 増改築相談員(登録番号)					
	※3. 4. の者がこの理由書を作成する場合は、本件、住宅改修にあたり連携・調整を行った担当の居宅介護(介護予防)支援事業所名及び介護支援専門員氏名を記入してください。 (居宅介護(介護予防)支援事業所名) (介護支援専門員氏名)					
作成者氏名						
●福祉用具の利用状況とともに改修後、利用が想定される福祉用具をレ点チェックする。						

〈総合的状況〉

利用者の身体状況	<ul style="list-style-type: none"> ●立ち上がりやバランスの保持、移動といった生活動作に関する身体状況を記述する。 ●屋内の移動方法（つかまらないで歩ける・つたい歩き・介助歩行・つえや歩行器利用・車いす介助など）は必ず記述する。 ●さらに、屋外に関連する改修をする場合は、屋外の移動方法も必ず記述する。 	福祉用具の利用状況	住宅改修後の想定	改修前	改修後
介護状況	<ul style="list-style-type: none"> ●各種介護サービスだけでなく、家族の介護も含めた介護状況を記述する。 ●見守り程度の状況であっても、その内容を記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●車いす ●特殊寝台 ●床ずれ防止用具 ●体位変換器 ●手すり ●スローブ ●歩行器 ●歩行補助つえ ●認知症老人徘徊感知器 ●移動用リフト ●腰掛便座 ●特殊尿器 ●入浴補助用具 ●簡易浴槽 ●その他 	<ul style="list-style-type: none"> ●「その他」の欄には、住宅改修に関連した介護保険給付対象外の福祉用具を記入する。 		
住宅改修により、利用者等は日常生活をどう変えたいか	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者の家族が住宅改修によって現在の暮らしをどのように変えたいのか、あるいは継続していきたいのかを、専門職の判断も踏まえた上で、総合的に記述する。 ●これまでの生活歴を踏まえ、利用者はどのような社会参加をしていきたいのかを記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ● ● 			

介護保険住宅改修状況等確認書(住宅改修が必要な理由書)

記入要領 P2

〈P1の「総合的状況」を踏まえて、①改善をしようとしている生活動作②具体的な困難な状況③改修目的と改修の方針④改修項目を具体的に記入してください。〉

活動	①改善をしようとしている生活動作	②①の具体的な困難な状況 (...なので…で困っている) を記入してください	③改修目的・期待効果をチェックした上で、 改修の方針(...することで…が改善できる)を記入してください	④改修項目(改修箇所)
排泄	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> ●改善をしようとしている具体的な動作についてレ点チェックをする。 <input type="checkbox"/> ●今回改修の対象でない項目にはレ点チェックする必要はない。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ●生活動作で困っていること、問題点について、その状況や介護の現状を具体的に記述する。 <ul style="list-style-type: none"> ・本当は…したいのだが、実際には…しかできないので、…について困っているというように具体的に記述する。 ・「動作」のレベル（例えば、「立ち上がる」「歩く」「車いすを押す」「またぐ」「段差昇降」「扉を開閉する」など）で、それがどのように困難なのかを具体的に記述する。 ・改正案の検討の際は全ての活動についてチェックが必要だが、理由書では改善しようとする活動の記述のみでよい。 ・生活のどの場面、どの動作が利用者・介助者にとって大変なのか、動作の流れに沿って一つずつ見極めること。寝たきりならば「座位が保てるか」、歩行ができれば「段差を越えられるか」などについても確認する。 ・①のレ点チェックと②のコメント 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> できなかったことをできるようにする <input type="checkbox"/> 改修の方針 <input type="checkbox"/> ●①②を記入し、現状の問題点を踏まえた上で、改修目的の項目をレ点チェックする（あてはまるもの全てに）。 <input type="checkbox"/> できなかつたことをできるようにする <input type="checkbox"/> 転倒等の防止、安全の確保 <input type="checkbox"/> 動作の容易性の確保 <input type="checkbox"/> 利用者の精神的負担や不安の軽減 <input type="checkbox"/> 介護者の負担の軽減 <input type="checkbox"/> その他 () 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 手すりの取り付け () ●様々な角度から検討し、決定された改修内容の項目(住宅改修の種類)をチェックし、内容を記述する。 () ●改修箇所は、場所だけではなく「手すり」であれば、「便器横壁面」等その取付位置や寸法等も具体的に記述するとよい。 () ●「その他」の欄には必要に応じて付帯工事を記述する。
入浴	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 入浴・排泄・外出活動に関連して、浴室・トイレ・玄関までの移動については各活動の欄にレ点チェックする。(ただし、この場合、移動について各活動(排泄・入浴・外出・その他)に共通する内容は、②において、例えば「排泄」の欄のみに記述し、各活動の欄に重複して記述する必要はない。) 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> できなかつたことをできるようする <input type="checkbox"/> 転倒等の防止、安全の確保 <input type="checkbox"/> 動作の容易性の確保 <input type="checkbox"/> 利用者の精神的負担や不安の軽減 <input type="checkbox"/> 介護者の負担の軽減 <input type="checkbox"/> その他 () 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> できなかつたことをできるようする <input type="checkbox"/> 転倒等の防止、安全の確保 <input type="checkbox"/> 動作の容易性の確保 <input type="checkbox"/> 利用者の精神的負担や不安の軽減 <input type="checkbox"/> 介護者の負担の軽減 <input type="checkbox"/> その他 () 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 引き戸 ()
外出				<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 便器の取替え ()
その他の活動	<ul style="list-style-type: none"> ●「他の活動」の欄には「排泄」「入浴」「外出」以外の活動の生活動作を記述する。(例えば「調理：台所までの移動」や「洗濯：洗濯機からの洗濯物の取り出し」など) 			<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 滑り防止等のための床材の変更 ()
				<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> その他 ()